

No. 94

# すくらむ

2020.10.16 発行



福井県特別支援教育センターは、県立病院関連四機関の4階にあります。

P.1

## 巻頭言

「“withコロナ”時代に求められること」

P.2

・withコロナ時代に対応した研修の紹介  
～特別支援教育コーディネーター（幼小中高）養成研修～

P.3

- ・LDパッケージ 第2版 発刊について
- ・通信型研修（福井県教育総合研究所）に  
新規配信された講座の紹介

P.4

- ・書籍紹介「吃音のある子どもと家族の支援」  
「コグトレ」
- ・実践研究発表会の案内

## 巻頭言 「“withコロナ”時代に求められること」

福井県特別支援教育センター 所長 岸野 美佳

このコロナ禍の中で、学校がいろいろな工夫や地域の協力で教育活動を展開していただける様子を、ここ最近、学校訪問や報道などで多く拝見するようになりました。

“with コロナ”時代の生活様式を子どもたちが受け入れながら、いきいきと授業に臨んでいる姿や笑顔には本当に元気がもらえます。

当センターの研修事業も今年度はコロナ禍の影響をじかに受け、中止変更を余儀なくされました。その一方でオンライン上での会議や協議がいっしょに加速しました。そのような中、先日ある先生から「不登校の生徒とオンライン上で雑談ができてうれしかった」との報告を受けました。今後のGIGAスクール構想も待ち遠しいところではありますが、ICTの使用が目的ではなく、先の事例のように人とのつながりや多様な学びを可能にするツールとして活用できるように、教師として知識や技術を高めていけたらと思います。

次に、私から先生方に聞いていただきたいことを二つ挙げました。一つは、先にも触れました当センターの研修事業のことです。このコロナ禍が各研修の目的や内容を見直す契機となりました。まさに「禍を転じて福と為す」です。どのステージの先生に、特別支援教育の何を学んでいただくか、原点に立ち返り、新しい時代にふさわしい研修を次年度に向け再考できたらと思います。

二つ目、近頃の教育相談は、医療・福祉機関との連携ケースや高校生ケース、本人・保護者・学校との合意形成が難しいケースなどにかかわることが増えています。そこで見えてきたことは、合意形成に至るまでのプロセスや、子どもの将来を見据える視点、自己理解、自己選択・自己決定する力が相談支援の鍵になるということです。それらを明らかにし、また引き出すには時間がかかります。しかし“with コロナ”時代だからこそ、子どもファーストの軸を再確認し、「多元的・多面的なスペクトラム発想で子どものことを考える柔軟性と忍耐力を持つ（特総研；涌井）」ことが私たちや子どもにかかわるすべての方々にも求められているのだと思います。



## 特別支援教育コーディネーター養成研修(幼小中高)の一部を紹介します！

当センターでは、障がいのある子どもたちの教育の充実に向け、特別支援教育に関する様々な教職員の研修を行っています。

今年度は、感染防止策を講じた研修のあり方を検討し、学習支援システムを使って講義配信をしたりMicrosoft Teamsを活用したりするなど、withコロナ時代に対応した研修を実施しています。今回は、その中の特別支援教育コーディネーター養成研修(幼・小・中・高)(以下特コ研)について紹介します。

特コ研は年間4回の研修のうち、今年度の第1研修、第2研修は集合型研修が実施できず、講義資料配信、振り返りシートで代替しました。第3研修は所属校における実践として、例年、研修者が校内研修の企画・運営を行っていましたが、今年度は校内研修に限定せず、校内での支援会議運営に置き換えも可能という柔軟な研修内容に見直しました。研修者が所属校において、どんな第3研修を行っているかを、いくつかご紹介いたします！

### 小学校 A特コ

#### 支援会議の運営・実施

特コ養成研の講義資料「保護者を交えた支援会議」を参考にし、支援会議までに行けることと、支援会議の進め方について考えていきました。

◆特コとしての当日までの動き…時間を調整して授業の様子を見に行ったり、担任以外のかかわる教員から、回覧等で様子を聞き取ったりして、対象児の情報収集をしました。

◆支援会議の進め方…保護者の思いを十分に聞くことからスタートし、客観的なアセスメントの結果から、児童本人の困り感を共有し、みんなで手立てを考えていくことにしました。

◆支援会議の開催…情報収集や特コの立場での見立てから分かった児童の良さについて、タイミングよく話題に出すことを心掛けました。児童の苦手なところからではなく、児童の良さからのアプローチをみんなで一緒に考えていききかけになりました。



特コとして、情報を収集し共有する、視点を広げるなどの役割を確認できた支援会議になりました。

### 小学校 B特コ

#### 校内研修の運営・実施

一伝達講習&インシデントプロセス法を取り入れた事例検討会

特コ自身が視聴した「ユニバーサルデザインを活かした学級づくり」について、“ぜひ校内の先生にも知ってもらいたい”という思いから、研修に伝達講習を取り入れました。

特コも通常担任という立場にあることから、学級崩壊につながらないために、学級の雰囲気やUD化すること、人が話しているときは黙って聞くという静けさの配慮をすることなど、日々の学級づくりのヒントになる話を意識して校内に伝達しました。

事例検討会では、グループごとに付箋を用いてアイデアを出し合い、明日から取り組めそうな支援方法を一つみんなで決めていきました。最後に、グループで決めた支援方法を全員で共有しました。事例提供した教員からは「自分に足りなかった視点に気が付くことができました。」といった感想が聞かれました。短時間でしたが、子どものことを語り合う同僚性のよさに気付いてもらえました。



児童のことを語り合い、新たな気付きを得ることが教職員の力量アップに繋がることを実感できた研修になりました。

### 中学校 C特コ

#### 校内研修の運営・実施

現職教育「個別の教育支援計画・指導計画」

本校では、学習面や行動面で困り感を抱いている生徒について教員間で情報を交換しながら生徒理解を深めているものの、個別の教育支援計画を作成するまでには至らないという現状がありました。そこで、「個別の教育支援計画・指導計画」をテーマにした現職教育を企画し、校内でその必要性を実感できるようなグループワークをしたいと思います。「個別の教育支援計画・指導計画作成のねらい、作成のプロセス等」についてプレゼンテーションをした後、生徒の個別の教育支援計画を作成するグループワークを行いました。生徒が所属する学年の教員が必ず一人はいるようにグループを組み、皆が生徒の実態を共有しながら検討できるように工夫しました。

これまで、生徒の実態を学年で共有していても、何を目標にして学習を進めていくかについては十分に検討できていませんでした。しかし、グループワークを通して「保護者も交えて目標を確認すること」「目標を共有し、連携しながら指導すること」の大切さに気付き、個別の教育支援計画作成の意義を実感した教職員が多かったと感じています。



目標を明確にし、連携するために、個別の教育支援計画が活用できることを発信できた研修になりました。

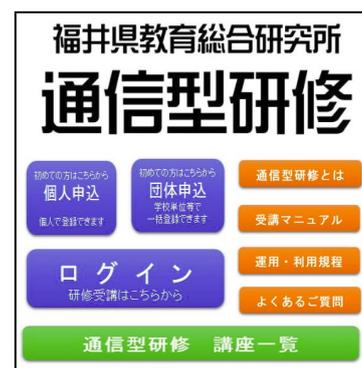
## 「読み」や「書き」に困難さがある児童生徒に対する アセスメント・指導・支援パッケージ(第2版)の発刊について

当センターでは、子どもたちの読みや書きの困難さへのアプローチと共に、どのようにしたら、あるいは何を補えば授業や活動への参加状況を高めることができるのか、「読みたい」「書きたい」「できるようになりたい」という子どもの気持ちに寄り添い、学習意欲を支えながらどのように学びを保障できるのかを考えてきました。平成30年7月に「読みや書きに困難さがある児童生徒に対するアセスメント・指導・支援パッケージ 第1版」を発刊、令和2年3月にはさらに新しい情報や実践を加えた「増補版」を発刊、さらに、令和2年9月には、第1版と増補版を合わせ、改訂、追加をした「第2版」を発刊し、ホームページに掲載しました。第1版、増補版同様、第2版もご活用いただくことで、読み書きが苦手な児童生徒の理解や支援の輪がさらに広がり、必要な支援が当たり前になされる共生社会に向かうための参考になれば幸いです。



## 通信型研修(福井県教育総合研究所)に新規配信された講座の紹介

このたび、福井県教育総合研究所の「通信型研修」のラインナップに、当センターの実践研究発表会(令和元年度)の4つの発表が加わりました。小学校、中学校、高等学校における先進的な取組が報告されています。個人研鑽、または学校単位での研修にご活用ください。県内の教職員は所定のオンライン手続きを行うことで、学校や家庭で動画を視聴することができます。また、資料もpdfでダウンロードすることができます。全教職員で校内研修として視聴した学校もありました。今後、特別支援教育に関する講座を追加していきます。



### S001 実践から学ぶ特別支援教育(小学校)

#### 「特別支援教育の視点を取り入れた授業改善」

特別支援教育の視点を取り入れた授業研究会を通して、気付きやすい児童に対するよりよい支援や授業での工夫について、校内の教員の意識を高めていくことを目指した取組です。

### S002 実践から学ぶ特別支援教育(中学校)

#### 「通常学級に在籍する生徒(LD)への適切な合理的配慮の決定に向けて」

読み書きに困難さがある通常学級の生徒に対し、合理的配慮の決定に向けて家庭と関係機関とともに協議と試行を繰り返し行ってきた取組です。

### S003 実践から学ぶ特別支援教育(高校通級)

#### 「感情コントロールに困難さのある生徒を支えた3年間の高校での取組」

感情のコントロールが苦手で、対人関係のトラブルが多い生徒に対し、理解啓発の研修や校内支援体制の整備、高校通級の活用を行った取組です。

### S004 実践から学ぶ特別支援教育(高等学校)

#### 「特別な支援を必要とする生徒を支える校内体制を整えるための取組」

特別な支援を必要とする生徒が充実した学校生活を送るとともに、卒業後も自立した生活を送ることができるよう、外部機関と連携しながら校内支援体制を整えてきた取組です。

## おすすめの書籍紹介



### 保護者の声に寄り添い、学ぶ 吃音のある子どもと家族の支援

～暮らしから社会へつなげるために～

堅田利明・菊池良和（編著） 学苑社 本体1700円＋税

科学的な吃音の基礎知識、本人の自己理解、周囲への理解・啓発の働きかけ方などが、当事者や家族への「共感」と「傾聴」を軸に、丁寧に解説されています。また、当事者や家族のエピソード、園や学校の先生、言語聴覚士の取組も掲載されています。

「Q08 吃音の理解・啓発」では、当センターの取組として、保護者対象の「吃音座談会」、本人・保護者・学校とともに進めた「理解授業」について記載されています。吃音の理解・啓発の進め方が、他の障がいの合理的配慮を進める上でも参考になります。



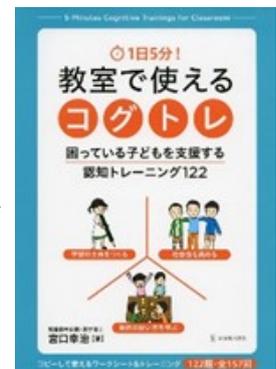
### 1日5分！教室で使えるコグトレ 困っている子どもを支援する認知トレーニング122

児童精神科医・理学博士 宮口幸治（著） 東洋館出版社 本体2000円＋税

発達障がいの診断の有無に限らず、教室で困っている子どもたちは、学習面や生活面で共通した課題（＝認知機能の弱さ）をもっています。「コグトレ」は、子どもたちが学校や社会生活で困らないようにする認知トレーニングです。

コグトレの3つの要素である「学習面」「社会面」「身体面」のトレーニングをすべて網羅しています。クラスでコグトレを実施するための全122ワーク・全157回分を収録し、コピーしてすぐに使うことができます。理論編では、認知機能と困っている子どもの特徴との関係が分かりやすく記されています。毎日授業で活用したり、特別支援学級、通級指導教室の自立活動で活用したりできるので、とても使いやすいと思います。

宮口幸治先生の著書「ケーキの切れない非行少年」の中でも取り上げられているものです。朝の会などちょっとした時間を活用して、クラス全体で取り組むのもよいと思います。



## 実践研究発表会のご案内

特別な教育的ニーズがある児童生徒への指導や支援の在り方、園・学校全体で取り組む特別支援教育に関する実践研究の発表を通して、広く意見や情報を交換し、指導の一層の充実と教職員の資質向上を図るため、『実践研究発表会』を毎年開催しています。つながりや協働を意識した、さまざまな実践を知ることができます。ぜひご参加ください。

日時：令和2年2月3日（水）

主会場：福井県特別支援教育センター

発表形式：参加者と遠隔システムをつないで実施  
各所属校・機関からご参加いただけます！

発表者  
募集中！

☆ 詳しくは、各園、学校・機関に配付する開催要項（12月末配付）をご覧ください。  
また、ホームページでもご案内いたします。

センターだより

すくらむ 第94号



発行日 令和2年10月16日  
発行所 福井県特別支援教育センター  
所在地 〒910-0846  
福井市四ツ井2丁目8-1  
TEL (0776)53-6574  
FAX (0776) 52-6272

E-mail tokuse@pref.fukui.lg.jp

URL <http://www.fukuisec.ed.jp>